



# 七月の觀察

堀 七 藏

## 一、七月の材料

七月に觀察させる植物材料には、たぢあふひ、あさがほ、月見草、ひるがほ、きうり、なす、ゆり、するれん等がある。動物材料には、燕でも雀でも雛の巢立ちするさきであるからそれを觀察させるがよい。また、さんぼが多いからこれを觀察させるもよい。更に、蠅でも蚊でも、蜚でも觀察させるがよい。幼稚園の附近に森があれば、そこで幼児に觀察させるものが多いし、幼稚園の附近に小川があれば、そこに幼児を引率して觀察させたいものが多い。川の流れても川原でも、亦川原に生ぜる植物でも、そこに棲む動物でも觀察させるがよい。また、いろくくの石や砂を集めさせることも面白い遊びになる。殊に水遊びでも砂遊びでも、自然の

小川で幼児に危険がなくなれば、そこに引率して遊ばせるやうにせねばならぬ。水の實驗であるさか何さか、大人が限定した作業でなく、幼児が各自の自由に遊ぶことが出来るものを選定せねばならぬ。幼児は遊んでゐる間にいろくくの自然物を觀察し、自然現象を直観してゐるものである。一つの自然物や自然の現象をこり出して觀察させることは甚だ不自然である。幼児が遊びの間になす直観は甚だ雑然たるものであるが、所謂體驗であるから實に確實な印象が多いのである。具案的に觀察の指導をなすことが出来なくとも、幼児が遊んでゐる間に得る印象、認識を大に尊重し、強制的な觀察を強要してはならぬ。

## 二、月見草

つきみぐさ(月見草)はつきみさうこもいふ。高さは一メートル以上にも達し、莖にも葉にも細毛を生ずるものである。葉は長卵形又は長橢圓形をなし互生してゐる。花は大きく整齊であり、花梗がない。萼が筒形になつてその中に雌蕊の子房がある。それで萼の筒部は子房より上に延長してゐるので、一寸花梗を誤認するものがある。花瓣は四枚あり、黄色で大形である。花瓣には筋が縦に多く通つてゐる。雄蕊は八本ある。その葯より黄色な花粉を出すものである。雌蕊はその子房が萼の筒部の中に入り、花柱は長く、柱頭が四箇ある。月見草の開花は日没の頃で、翌日の日中になるまで凋れるものである。この月見草は北アメリカの原産であるを稱するが、海濱の砂原にも多く自生してゐるがまた庭園にも栽培せられる。

### 三、こんぼ

こんぼは二糶位から十糶位までの大きさがある。頭部は大きく、細い頸を有し、容易に動かすことが出来る。複眼は大きく、左右に凸出し光澤がある。こんぼの顔の大方目玉

かなといはれる位である。複眼の間に三箇の單眼がある。觸角は短小である。こんぼの口はよく發達し、咀嚼に適してゐる。胸部は大きく、二對の翅と三對(六本)の肢とがある。二對の翅は狭長くして略々同形である。網目狀の細脈があり、透明にして黒色、褐色、黄色等の斑紋のあるこゝがある。こんぼの翅の飛ぶ力が大變に強い。肢は小さく物に止まり、又は食物をつかむ用をなすだけである。腹部は細長くして圓筒狀をなしてゐるので、普通いっぽといはれる。體は黒色で紫色、青色、綠色等の光澤のあるものがあり、又黄色の斑紋のあるものがある、或は黄色、赤色を呈するものがあつて美麗である。雄は腹部の第九節に生殖孔があつて、第二節下面に貯精囊がある。雌にはそれがない。それでこんぼの雌雄が見分けられる。こんぼのおつながら、三子供の稱するは、雄が腹部末端にある把握する附屬器を雌の頸部に附著し、雌は體を屈曲して尾端の生殖器を雄の貯精囊に接して交尾した後、分離せずしてその儘飛翔するのを云ふ。卵は水中に又は水草面、泥土上等に産附けるものである。一羽の雌は通常數百乃至數千の卵を産むもので

ある。卵は數月乃至數ヶ年で孵化する。さんぼの子はたいこざし又はやご、こいはれ、水中に棲息する。このぼの子は數ヶ月乃至數ヶ年で老熟し、水を去つて附近の植物等により、直に脱皮してさんぼになる。さんぼは盛に蚊、蛾、蠅等の昆蟲を食するもので、害蟲驅除に大なる利益を與へるこいふ。

さんぼは我が國に産するものだけでも百五十種に達するこいふ。い、さんぼは小形で體長が三糰内外ある。翅は狭長であり、體は糸の如くであるから、その名がある。水溫地の雜草中に棲息するものである。おはぐろ、さんぼはい、さんぼよりも大形で、體は細長くして六糰内外である。水邊に棲息し大なる翅を背上に立て靜かに開閉する。翅は黒色であるからその名がある。あか、さんぼは體が赤色で、翅に黒斑のあるものがある。しほから、さんぼは雄が腹部に白粉を被るによりその名がある。この雌は腹部が黄色で、黒い筋があるからむぎわら、さんぼと稱する。おに、やんまは本邦産のさんぼの中で最も大形のものである。體は黒色で黄斑がある。ぎん、やんまは普通黄綠色に黒褐斑がある。雄の

腹部基部は青藍色である。

#### 四、たちあふひ

たちあふひの莖は高さ二メートル以上に達し、直立する。莖と葉には毛がある。葉は柄を有し、大きくハート形である。五つ又は七に淺く裂けてゐる。葉柄の基部に一對の托葉がある。夏、葉腋毎に花をつけ、莖の頭では長き穗狀花序をなしてゐる。花は直徑五六糰もあり、短き花梗がある。花瓣は紅、白、紫等いろ／＼の色があり、その色に濃淡がある。深紫色にして黒色を帶ぶるものを黒莖と稱する。單瓣、重瓣、千瓣がある。各瓣の形狀に數品ある。圓形のものや圓瓣こいひ、狭細なものを細瓣こいひ、先端が鋸齒になつてゐるものを鋸口こいひ。また細かに剪れたる花瓣を剪絨こいひのである。小總苞(外萼)こいひは六箇乃至九箇あり、萼片(内萼)こいひは五裂してゐる。雄蕊はその頂に於て數多の葯を附着してゐる。子房は多室である。その各室には單胚珠を藏む。花柱の分枝は子房の室と同數で、各々糸狀をなし、且その内側は柱頭部をなすので中々

面白く出来てゐる。心皮は數多あつて短き中軸の周圍に輪狀をなして附著し、成熟すれば中軸より分離するものである。各心皮は全面にして中に單種子がある。立莖の果實をよく觀察するにまごに面白ものである。しかしこれは勿論幼兒に觀察出来ることではない。

## 五、ゆり

ゆりにはつばうゆり、ひめゆり、おにゆり等いろいろある。しかしおにゆりが最も普通であり所謂ゆりねと稱して食用にするものはこのゆりの莖、葉が球になつたものである。

おにゆりの花は地上に直立せる長き莖の上部にいくつか生じ一つづゝ柄の先に着き、下を向いて開くものである。花には六枚の花瓣の如きものがある。その中で三枚は外側にあり、三枚はこれと互違ひに竝んで内側にある。外側の三枚は萼で、内側の二枚は花瓣である。略ぼ同じ大いさで長い橢圓形をなし、黄赤色で内面に多くの黒紫色の點がある。花が開くに六枚共に外方に卷上がるものである。

花の内部には六本の雄蕊と一本の雌蕊とがある。何れも甚だ長くしてその本は花の底に着いてゐる。雄蕊の先の囊は長き橢圓形をなし中央の一點で著き動き易いものである。

この囊は縦に裂けて濃い茶色の粉を出すものである。この花粉が白い着物に附く中々きれいなものであるから注意せねばならぬ。

雌蕊の先は三つにくびれて粘つてゐる。雌蕊の本は緑色で太く長い。

おにゆりの花には底に蜜があつて蟲が飛んで来てその蜜を吸ふものである。そのまき雄蕊の出せる粉が蟲の體に著いて運ばれ雌蕊の先に著くものである。

おにゆりの莖は黒紫色を帯びてゐる。葉は互違ひに莖に著いてゐて、長い橢圓形で先が尖つてゐる。その脈は縦に通つて相竝んでゐる。おにゆりの莖には葉の著ける所の内側に黒紫色の小さな球がある。この球が地に落ちるに莖、根を生じて若きおにゆりとなるものである。

莖の下部は地中にあつて、その下端に一つの白い大きな球がある。この球は多くの厚い鱗の如きものが相重つて成

れるものである。この鱗の如きものは地中の莖に著ける葉が養分を貯へたもので所謂ゆりねである。地中の莖は球の下側及び球よりも上の所から多くの細長き根を出すものである。

## 六、七夕祭

七夕祭の由来を得意になつて幼児に説明することは愚の骨頂であるが、しかし七夕祭を行はせることは面白い遊びである。青竹に短冊を吊す作業は幼児にも出来ることであり竹の観察も出来る竹の葉がぎんなになつてゐるか竹の節がぎんなになつてゐるか、竹の葉でお舟をこしらへさせるもよい。しかして七夕祭に際して夏の天候を観察させるもよい。夏の暑さ夏の日の永さ、夏の雲等を観察させるもよい。太陽を観察させるには赤いガラスを通して見るか布片を通して見るやうにするこよい。

七夕の由来を参考までに説明するこ次のやうである。

銀河にある白鳥さいふきれいな星座がある。翼をひろげた白鳥に似てゐるやうに見えるさいふのでその名があるが

寧ろ十字架に見える星座である。白鳥より少しはなれて琴を稱する輝いた小さな星座がある。この星座の中に北方の空で第二番目に強く光る琴さいふ星がある。この星は太陽の百倍よりも強い光をもつ大きな星である。

この琴についての傳説がある。琴を織女星さいふのである。織女が牽牛を戀におちたので父の怒にふれて銀河の兩岸に追はれ、織女は織女星となり牽牛は牽牛星となつて鰲座にある。父はこの織女星を牽牛星を一年に僅かに一度だけ銀河で遇ふことを許した。その日が七月七日である。それでこの日に七夕祭を行ふに至つたのであるさいふ。

## 七、石鹼玉

幼児は水遊びを砂遊びを大變に喜ぶ。夏は水が冷くないので水遊びをなすには最もよい。噴水でも玩具の金魚をうかしてもまた如露で水まきをなすこども大人には面白いこどもではないが幼児は一日中水遊びをしてゐてもあきない位である。八ヶましい實驗なごさいふはす幼児の欲する儘に水遊びをさせるがよい。

石鹼玉を吹く遊びも面白い。石鹼玉を吹くには石鹼液をつくらねばならぬ。洗濯石鹼をうすく削つてお湯にまかし砂糖を少量加へたものは大きな石鹼玉を吹くこぎが出来。幼児は中々上手に石鹼玉を吹くこぎが出来ないから樹脂石鹼液であるこ幼児にも澤山小さな石鹼玉が吹ける。樹脂石鹼液は褐色の洗濯石鹼を湯にまかしてつくるこぎが出

来る。若し松脂があれば乳鉢でよくすりて細粉ミなしそれを試験管に少量入れ、それに苛性ソーダの溶液を加へて煮るこ樹脂石鹼が出来。この樹脂石鹼に水を加へて麥稈などでプット吹くこ小さな青、赤、紫なごの石鹼玉が二三十分も一時に出るものでまこに面白い。これならば幼児にもよく吹くこぎ出来る。

## みごり會の園遊會

氏 原 銀

昭和八年六月三日午後一時より、立派に新の處々に撰攤店をしつらへ、おでん店、新茶築なりし大塚なる、東京女高師附屬幼稚園内 園子店、すし店、駄菓子店、カルピス店、みに於て、みどり會主催の園遊會が開かれた。つ豆店等何れも、東京市内に於ける名代の店た。當日御案内を辱ふし参列いたしました、より選ばれしもので、其風味の特別の美に舌集まられしは、新舊の諸先生、新舊の會員諸 鼓を打たれたり。

氏にて二百餘名の出席者なりし、お互に久振 宴半ばにして、廣き新らしき遊戯室で〇〇りの會合に喜色溢れ、殊に年長會員の恩師に 齋の、手品や種々面白き奇術や魔術の其巧妙對し又お互の間に、昔時の懷舊談に花を咲か 不思議の演出に、一同は驚異の眼を以て、質せらるゝ笑聲に、本日の機會を喜ばれる様を 面白く之れを見、其技術に心を奪はれて感 激す。

で舊知の會員に久々でお面談を得又新らし 再び庭園に出で、會員諸氏の種々面白き競 技あり、終りて一同撮影あり、夕方一同歡 喜會員にお目にかゝれし事を感謝す。

當日の園遊會の設備としては、廣く新らし 盡くして閉會。

く小山を貢へる、新緑の色うるはしき庭園内

當日の感想

(昭和八年六月七日記)

當日の諸設備萬端の深く心を籠められ趣向をこらされたる、幹部の方々に厚く御禮を申上げ、此半日を皆様と共に最も楽しく過ごし老いの身も大に若かへりの思なす。

尙本會の場所として、園舎庭園の新らしく且廣く整頓完備せるは舊お茶の水園舎の比に非ず、爰に於て昨暮お茶の水の地を去るに當り之れが惜別愛著の情に堪へざりしも、今は此優れたる園舎庭園の現代的構造に、舊お茶の水幼稚園に惜別の念は全く除去するに至れり。